

城山中学校における SDGs 構想 2 (Next Stage) の実現イメージ (令和 6 年度)

<SDGs に取り組む目的>

学校経営の方針キーワード「粘り強く取り組む」「自己有用感」

2030 年は現中学生が 18~20 歳になる時期であり、他地域や他国のの人々と交流する際に、「SDGs への取組」は共通言語（共通の話題）になると思われる。そのために、中学生の時期に SDGs を活用した学習に取り組む経験を積むことにより、グローバルな視野を養い、他地域や他国のの人々との交流に対して自信をもって対応できる人間の育成を目指す。

Step1 SDGs の実践

- 目標・SDGs の基礎知識を学ぶ**
 (総合、学活、技術科、外部講師など)
- ・生徒会専門委員会で取り組むことのできる目標(ターゲット)を実践する
 - ・城山地区の課題を考える
 (ふるさと学習、あったか活動、他)

Step2 SDGs の活動を発信しよう

- 目標・SDGs の視点から、城山地区の課題解決の具体策を考える。**
- ・活動を発表、発信、情報交換をする
 - ・広い視野で達成状況を調べる

Step3 SDGs の活動を深化しよう

- 目標・SDGs の視点から地域貢献を実践する**
- ・他地域、他国との交流による深化
 - ・今後も自分自身で継続して実践できる活動を見つける
 - ・実践の見直しと次年度の計画を立てる

<期待する変容>

生徒	視野の拡大		主体的な行動		交流による深い学び
	・世界的な流れと地域の課題に目を向ける ・生徒会活動と SDGs を結びつける		・地区の課題とあったか活動を結び付ける。 ・課題解決のための実践 ・活動状況の発信		・他地区、他国との情報交換による深化 ・卒業後も持続可能な取組の実践

教員	・生徒へSDGsの取組を啓発する ・生徒会活動への働き掛け ・SDGs出前講座の実施（1，2年） ・図書室にSDGsコーナーを常設	▶	・自治会長と生徒による意見交換の実施 ・学校園内のSDGsへの取組を共有する ・教科（領域）指導とSDGsを関連付ける ・学校園内小学校への発信	▶	・発信力の向上を図る（各教科・領域） ・学年ごとに段階的に育成を図る （Step1は1学年、Step2は2学年のように） ・持続可能な計画にする

※ 教員は、生徒と地域の変容を結びつける支援・仕掛けを行っていく。【随時検討】

地域	学校活動への理解		城山地区の課題を中学生と共有		地域を支える人材の育成
	・配付物、HP による周知 ・自治会長への働き掛け		・城山あったか活動による共通理解の促進 ・自治会単位での活動の推進		・地域の住民と協働した取組による育成 ・地域の取組と協働して PR する活動